

摂食・嚥下障害看護研修 『食べたい!』を支えるケア 研修会実施報告

日時 : 令和5年5月23日(火) 8:30~12:30

対象者 : ラダーⅡ~Ⅲを目指す者・地域支援対象研修

参加者数 : 対象者 19名 地域医療従事者 6名

目標 : 摂食嚥下障害のアセスメント方法、訓練方法を習得し、看護実践に活用することができる

<講師の紹介>

摂食・嚥下障害看護認定看護師
4階A病棟 INs



<内容>



今回の研修は「『食べたい!』を支えるケア」というテーマで行われました。

口から食べることは生命維持の為だけでなく、日常生活の楽しみの一つであり、生理的意義・精神的意義・社会的意義があり、口から食べることができなくなると、どのような弊害があるかを学びました。演習では「水分を飲む」「ゼリーを食べる」「大きいスプーンと小さいスプーンの食べ比べ」を行い、食

事介助をされる側での体験ができました。研修後のアンケートには「普段意識して嚥下や飲み込み動作をしていなかったけれど体験することで患者さんの気持ちを理解できた。」また「普段の食事介助を見直すきっかけになった」などの意見が聞かれました。

窒息の原因は誤嚥が多く、食事時の発生が一番高いため、予防するには高齢者の身体的・精神的な特徴をつかみ、口腔ケア・食事内容・食事方法が患者さんに適しているかを常に考え、アセスメント、評価を行っていくという看護ケアの基本に戻る事が重要であると改めて実感しました。

この研修で学んだ事を病棟のスタッフと共有して患者さんの為に頑張っていきたいと思います。